

|     |             |    |       |     |   |       |       |
|-----|-------------|----|-------|-----|---|-------|-------|
| 教科  | 地歴公民科       | 科目 | 政治・経済 | 単位数 | 2 | 実施クラス | 3年 7組 |
| 单元名 | 少子高齢社会と社会保障 |    |       |     |   |       |       |

### 1. 授業（単元）で扱う目標・内容について

①本授業の目標（能力向上をねらいとする）Step を         、特にねらいとするものを          で示しています。

| Step | 発想   | 課題・仮説設定                           | 調査・実験計画                              | データ取得・処理                                | 研究遂行,考察                        | 表現・発表                       |
|------|--|-----------------------------------|--------------------------------------|---|--------------------------------|-----------------------------|
| 6    | 複数の考えを組み合わせながら、自分の発想を再考し、新しい価値を生み出すことができる。 | 実験・調査結果から新しい課題を見つけ、仮説を設定することができる。 | 課題や期間に合わせた、適切な実験・調査計画を立案することができる。    | 与えられたデータを統計的に分析し、分析結果を言語化できる。           | 必要に応じて外部と協力しながら研究ができる。         | グローバルに発信・発表ができる。            |
| 5    | 他者とアイデアを討論し、より良いものにしていくことができる。             | 仮説が適当なものであるかを判断することができる。          | 先行研究を参考に、新たな見解や視点を見いだすことができる。        | 課題を検証するための、データの取得・分析方法を検討することができる。      | 課題を解決するために、仮説⇒検証を繰り返すことができる。   | 論理的に矛盾のない文章が書ける。論文の執筆ができる。  |
| 4    | 知見・知識を統合して、アイデアを見いだすことができる。                | 疑問に対して仮説を設定することができる。              | 課題に対する先行研究の調査を行うことができる。              | 与えられたデータの代表値、分散、相関係数等を調べられる。            | 得られた結果と仮説が対応するかしないかを正しく判断できる。  | スライド・ポスター等を使って発表することができる。   |
| 3    | 身の回りの現象について自分の興味のあることを調べることができる。           | 調べた結果に、新たな疑問を持つ。                  | 仮説を検証するための手段・機材を検討することができる。          | 実験・調査を再現できるように研究記録を正確に取ることができる。         | 実験・調査の条件を再検討し、調整する事ができる。       | スライド、ポスター等の発表資料を作成することができる。 |
| 2    | 身の回りの様々な現象を比較して、違いを見つけていることができる。           | 書籍やインターネットを用いて疑問について調べることができる。    | 基本的な実験・調査技術を習得している。器具、操作の原理を理解している。  | 主張したい事柄に応じて適切なグラフを選択できる。                | 実験・調査の結果から何がわかったのかを理解することができる。 | 自分の意見や考えを、レポート等にまとめることができる。 |
| 1    | 日常の様々な出来事に興味を持ち、対象をよく観察することができる。           | 様々な現象に疑問を持つことができる。                | 実験・調査の手順を理解している。実験の結果を正しく読み取ることができる。 | グラフの読み取りができる。数値とグラフの種類が与えられれば、書くことができる。 | 計画に基づき、手順通りに実験・調査を行うことができる。    | 自分の意見を持ち、失敗を恐れずに表現できる。      |

### ②本授業（単元）で習得すべき内容

・日本の少子高齢社会について理解し、社会の形成者として、よりよい社会を考察する。

### 2. 1の目標・内容を達成できたかを判断する「規準」と「方法」

規準：グループで協働して、日本の現状をふまえた上で、少子高齢社会に対応する政策を考え、発表できる。  
 他者の意見を統合させて、レポートにまとめることができる。  
 方法：発表・レポート

### 3. 具体的な授業におけるチャレンジ（教材・発問・学習活動・めあて・ふりかえりなど）

- ・少子高齢社会に対応する政策をグループで協働して考える。
- ・他グループが発表した政策を評価し、良かった点、課題点を指摘する。
- ・自グループでの意見交流や他グループの意見を統合し、個人でレポートにまとめる。

#### 4. 授業の展開

| 時間  | 学習内容と活動   | 指導上の留意点・評価   |
|-----|---|--|
| 2分  | <ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの振り返り。</li> <li>少子高齢社会の現状を振り返る。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板に合計特殊出生率や出生数、人口の推移のグラフを投影し、説明する。</li> </ul>   |
| 45分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで政策発表。</li> <li>グループの政策を他グループが評価し、指摘する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①発表の際は、電子黒板に政策を投影する。</li> <li>政策は、実現可能性・公平性・持続可能性の観点から教員と生徒がそれぞれ評価する。【思考・判断・表現】</li> <li>②他グループの政策に対する意見が出にくいグループには、机間指導から考えるポイントを伝える。</li> <li>③政策の発表に対して、まず良かった点から述べさせることで、考え方の否定や発表がしにくい雰囲気を作らないようにする。また、政策を発表したグループは指摘を受けた内容をメモするよう指示する。</li> </ul> |
| 3分  | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表の全体講評</li> <li>レポート記述</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの意見を統合し、個人で少子高齢社会に対応する政策をレポートにまとめる。</li> <li>これまでの意見が統合された政策をレポートにまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>レポートを記述する時間が足りない場合は、次の時間に提出させる。</li> </ul>   |

#### 5. 授業プリント等

- ・評価シート
- ・iPad

提出は、¥¥landisk-eea76a¥A00\_全校共有¥10 総務企画部¥◆◆R03 マトリクス校外向け公開授業◆◆  
¥「授業案提出箱」へ 10月14日(水)までをお願いします。